ここをステップアップの場に

古見 智弘さん

町にある就労継続支援B型事業所（P4参照）「地域作業所合力の郷」の古見 智弘施設長と、昨年4月から利用している入月 隆也さんに、障がい者の就労についてお話を伺いました。

できることを増やす

古見 障がいにより、できること・できないことがあると思いますが、自分の特徴を理解し、できることを一つでも多く増やしてほしいです。仕事をするうえで大切なことを学ぶとともに、一人でも多くの利用者に自立してもらえたらうれしいですね。

合力の郷では、「働く」ということを意識してもらうために、作業中はしっかりと仕事に向き合い、休憩中は他の利用者と交流できるような雰囲気づくりを心がけています。また、作業をするなかで主任などの役職を設けて、仕事に必要なコミュニケーションを学んでもらう取組をしています。

入月 合力の郷に来たとき、最初は環境に馴染むのに時間がかかりましたが、いろいろな作業を通して、できることが少しずつ増えてきています。朝起きられるようになったのも成長です。今では就職したいという気持ちが強くなってきています。

合力の郷ではいろいろな作業をしてきましたが、今は袋詰めや検品作業をしています。検品は神経を使うので大変ですが、お客さんに喜んでもらえるように、丁寧に作業し、良い品質のものを届けられるように心がけています。

障がい者雇用とこれから

古見 障がい者雇用についてはまだまだ理解が進んでいないと思います。特に、合力の郷の利用者に多い、精神障がいや発達障がいは、障がいがあるということが表面的にわかりにくいので、理解してもらうのが難しいです。

また、県西地域では企業数が少ないため、就職先や求人が少なく、希望の就職先を見つけるのに苦労しています。

地域のイベントに参加したり、仕事を通して交流したりすることで、出会いや新たな発見があります。「合力の郷ってこういう事をやっているんだ」と知ってもらうことで、障がい者に対する理解も進むと思います。

入月 これから、自分自身のことをもっと知り、一つでも苦手なことを解決したいです。また、どのような仕事があるか知りたいです。就職をして家族に楽をさせてあげたいと思っています。

入月 隆也さん